

2011年～2018年に開催した特別展

過去に開催した特別展をあいさつ文と一緒に紹介します。

◆特別展

●平成 29 年度（2017 年度）特別展「Chino/茅野×縄文/Jomon」

茅野市には、348カ所の遺跡がある。
そのうち、237カ所が縄文時代の遺跡。
あんなところにも、こんなところにも縄文が！

平成 29 年度
茅野市尖石縄文考古館 特別展

CHINO × 縄文
茅野 × JOMON

会期：平成 29 年（2017 年）7 / 15（土）～10 / 22（日）
（休館日：8 / 21・28、9 / 4・11・19・25、10 / 2・10・16）
会場：茅野市尖石縄文考古館特別展示室（大人 400 円、高校生 200 円、小中学生 150 円）
茅野市尖石縄文考古館 391-0213 長野県茅野市豊平 4734-132
電話 0266-76-2270 website http://www.city.chino.lg.jp/togariishi_m/

会期：平成 29 年(2017 年)

7 月 15 日（土曜日）～10 月 22 日（日曜日）

展示資料：新井下遺跡、梨ノ木遺跡、鴨田遺跡、
高部遺跡、構井阿弥陀堂遺跡、下ノ原遺跡、
茅野和田遺跡、阿久尻遺跡、御社宮司遺跡
出土資料ほか

ごあいさつ

八ヶ岳と霧ヶ峰の麓に位置する茅野市には、たくさんの縄文時代遺跡があります。市内の遺跡総数 348 のうち、237 遺跡が縄文時代の遺跡であり、時代別に見ると一番多いこととなります。

そうした多数の縄文時代遺跡では、国宝「土偶」を出土した棚畑（たなばたけ）遺跡や中ッ原（なかっぱら）遺跡、またかつて日本三大遺跡と称され、縄文時代の村の姿の研究の先駆けとなったここ尖石（とがりいし）遺跡などがよく知られていることと思います。また、国指定史跡の上之段遺跡、駒形遺跡も聞いたことがある、という方もいるかもしれません。

実は、それら保存されている遺跡や、遺跡があったことを示す記念碑や公園があるところだけが遺跡なのではありません。今日、私たちが生活を営むなかで使用しているさまざまな施設や道路があるところ、そこにも縄文時代の遺跡があったのです。

この特別展では、そのような、現在はインフラとして利用されているところにあった縄文時代の遺跡を紹介したいと思います。

●平成 28 年度（2016 年度）特別展「縄文時代の村落を解き明かす情熱 宮坂英弼と尖石遺跡」



平成 28 年度
茅野市尖石縄文考古館特別展
縄文時代の村落を
解き明かす情熱
—宮坂英弼と尖石遺跡—

会期：平成 28 年(2016 年)

7 月 16 日（土曜日）～11 月 3 日（木曜日）

展示資料：「龍谷文庫」資料

尖石遺跡第 18 号住居址出土土器

昭和 14 年（1939 年）～昭和 24 年

（1949 年）の調査の測量図面など

会期 平成 28 年（2016 年）7 月 16 日（土）～11 月 3 日（木）
 [8 月 22 日・29 日、9 月 5 日・12 日・20 日・26 日、10 月 3 日・11 日・17 日・24 日・31 日は休館日]
 会場 茅野市尖石縄文考古館特別展示室（大人 500 円、高校生 300 円、小中学生 200 円）
 茅野市尖石縄文考古館 〒391-0213 長野県茅野市豊平 4734-132
 TEL 0266-76-2270 website http://www.city.chino.lg.jp/togariishi_m/

ごあいさつ

今、皆様がいるこの尖石縄文考古館の真下にも、竪穴住居がいくつか発掘されています。つまり、皆様は尖石遺跡の一角にいながらにして、見学をしています。茅野市教育委員会では、今年 3 月にこの尖石遺跡を今後どのように保存し、活用を含めてどのように管理していくか、という保存管理計画を策定したところです。この尖石遺跡は、明治 26 年(1893 年)に学界に初めて報告され、昭和 5 年(1930 年)以降に本格的な発掘調査が行われ、特に昭和 15 年～17 年(1940 年～1942 年)のあいだの調査で、多くの成果をあげました。その調査を成し遂げたのは、中央で活躍する専門家でもなく、しかも大学で考古学を専門的に学んだわけでもない、地元の小学校教員である宮坂英弼でした。

はじめは、宝探しの、娯楽的な気持だったかもしれませんが、最終的には「縄文集落研究の原点」とも評価される成果を残し、昭和 27 年(1952 年)に遺跡の国宝と言える特別史跡に指定されました。

この展覧会では、そんな宮坂英弼の尖石遺跡の調査を、測量図面なども交えて振り返りたいと思います。



◀昭和初期の尖石遺跡

（「ごあいさつ」のパネル）

休日や勤務する学校の放課後に尖石遺跡へ出かけて宝探し感覚で発掘をしていた宮坂英弼。最後には縄文時代の集落の姿をいち早くとらえることになりました。この展覧会では、調査図面等で尖石遺跡、与助尾根遺跡の調査を振り返ります。

なお、本展示の一部は、平成 28 年度長野県茅野高等学校総合学習の一環で作成しました。

●平成 27 年度（2015 年度）特別展「縄文土器造形の頂点 5000 年後の競演」

茅野市尖石縄文考古館
特別展

縄文土器 造形の頂点 5000 年後の競演

会期 平成 27 年 8 月 1 日（土）
～ 9 月 13 日（日）
（8 月 17 日（月）・24 日（月）・31 日（月）、
9 月 7 日（月）は休館）

主催：茅野市教育委員会・茅野市尖石縄文考古館
協力：井戸原考古館、十日町市博物館、山梨県立考古博物館

水煙土器（大形渦巻把手状裝飾付土器）
〔山梨県甲府市上野原遺跡出土〕
（山梨県立考古博物館所蔵）

胸を張れる。
丹精込めて作った
だけに、呉れに
戻します！

鼻高々。
5000 年後の人
ちにも「すごい！」
と言っていただけ
るなんて！

火焰型土器
〔新潟県十日町市野首遺跡出土〕
（十日町市博物館所蔵、小川忠博氏撮影）

茅野市尖石縄文考古館
開館 9:00 / 閉館 17:00（入館 16:30 まで）
〒391-0213 長野県茅野市豊平 4734-132
TEL 0266-76-2270
e-mail togariishi.m@city.chino.lg.jp

会期：平成 27 年（2015 年）8 月 1 日（土曜日）
～9 月 13 日（日曜日）

展示資料：新潟県十日町市野首遺跡出土の火焰型土器、王冠型土器、山梨県甲州市安道寺遺跡出土の水煙把手付深鉢形土器、同甲府市上野原遺跡出土の水煙把手付深鉢形土器、同北杜市甲ツ原（かぶつつぱら）遺跡出土の獣面把手付深鉢形土器
新潟県十日町市笹山遺跡出土の国宝火焰型土器（No.1）のレプリカ
長野県富士見町曾利遺跡出土の水煙把手付深鉢形土器（長野県宝）のレプリカ

ごあいさつ

国宝の土偶五体を見ると、均整のとれたデザインを感じることができると思います。土偶は、それぞれものが直接に具体的な何かを生み出すものではありませんが、縄文時代の人々が生活を営んでいくうえで、価値観を共有したり集団を構成するメンバーのつながりを強めるために欠かせないシンボルだったのでしょう。それゆえに、とりわけ共有すべく作られた大形の土偶は手抜きを許されるようなものではなく、結果として美術的な価値も含めて国宝や重要文化財に指定されています。

そんな縄文時代の造形の頂点は、土偶だけではありません。縄文土器唯一の国宝である「火焰型土器」は、「美しい」と感じるかどうかは人によって異なるかもしれませんが、確かにぬきんてた造形、異常なまでのこだわりを感じさせる造形です。土器の果たすべき役割（調理や貯蔵）とは無関係のようで、機能からみて無駄とも言える立体的な過剰な装飾は、土偶同様に、生活していくうえで欠かすことのできないシンボルであったのかもしれませんが、手抜きなど感じられない逸品は、まさに土器の果たすべき役割以上の存在であったのでしょう。

この展示では、決して多くはないそうした土器をセレクトしてお見せします。展示されている土器は、あるものはほぼ同時代に離れた場所で存在していたものであり、それぞれの地域での「頂点」であったはずですが、しかし、縄文時代の当時には、互いにその存在を目の当たりにしたわけではないのです。そのような逸品が 5000 年の時を経て並ぶ展示となりました。じっくりとご覧いただきたいと思います。

●平成 26 年度（2014 年度）特別展「縄文の「お母さん」」

会期：平成 26 年（2014 年）6 月 14 日（土曜日）
～10 月 13 日（月曜日）

展示資料：茅野市内の各遺跡から出土した土偶
茅野市内出土の顔面把手付深鉢形土器
茅野市内出土の埋甕
茅野市内出土の土製耳飾り
国宝「土偶」のレプリカ



茅野市尖石縄文考古館
「仮面の女神」国宝記念 特別展

縄文の 「お母さん」

会 期
2014 年 6 月 14 日（土）
～10 月 13 日（月）
休館日：月曜日、休日の翌日
（※ただし、7 月 22・28 日、
8 月 4・11 日は開館）

開館時間
9 時～17 時（入館は 16 時 30 分まで）
ギャラリートーク：9 月 20 日（土）

茅野市尖石縄文考古館
391-0213 長野県茅野市豊平 4734-132
TEL 0266-76-2270 / FAX 0266-76-2700
e-mail togarishi.m@city.chino.lg.jp
URL <http://www.city.chino.lg.jp/www/contents/1000001479000/index.html>

ごあいさつ

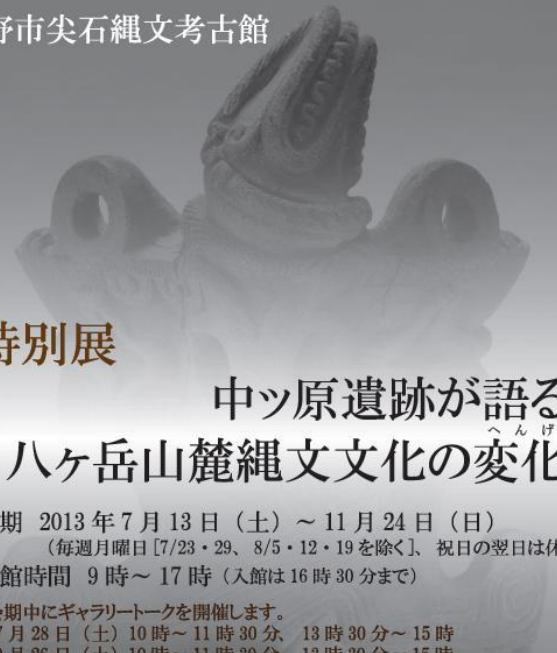
去る 3 月 18 日、茅野市中ツ原遺跡出土の土偶（仮面の女神）が、土偶造形の頂点に立つ例であるとして、国宝にふさわしいとの答申をいただきました。ただ、国宝の土偶、といっても、4000 年前というあまりにも遠い過去であり、なかなか縄文時代について親近感を覚えることは難しいことでしょう。

縄文時代に今現在のような科学技術はありませんでしたが、しかし脳の構造は私たちと同じであり、かけがえのない人へのいたわりの情も私たちと変わることはなかったと思われます。このたびの特別展では、縄文時代の人々が表現した母性を、土偶を中心にご紹介したいと思ひます。

●平成 25 年度（2013 年度）特別展

「中ツ原遺跡が語る八ヶ岳縄文文化の変化（へんげ）」

茅野市尖石縄文考古館



特別展

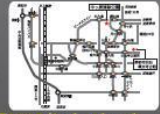
中ツ原遺跡が語る
八ヶ岳山麓縄文文化の変化^{へんげ}

会期 2013 年 7 月 13 日（土）～ 11 月 24 日（日）
（毎週月曜日 [7/23・29、8/5・12・19 を除く]、祝日の翌日は休館）

開館時間 9 時～ 17 時（入館は 16 時 30 分まで）

会期中にギャラリートークを開催します。
7 月 28 日（土）10 時～ 11 時 30 分、13 時 30 分～ 15 時
10 月 26 日（土）10 時～ 11 時 30 分、13 時 30 分～ 15 時

茅野市尖石縄文考古館
391-0213
長野県茅野市豊平 4734-132
TEL 0266-76-2270
FAX 0266-76-2700
e-mail
togariishi.m@city.chino.lg.jp
URL <http://www.city.chino.lg.jp/www/contents/1000001479000/index.html>



会期：平成 25 年（2013 年）7 月 13 日（土曜日）
～11 月 24 日（日曜日）

展示資料：中ツ原遺跡出土資料（縄文時代前期～
後期）
駒形遺跡、棚畑遺跡、長峯遺跡、下ノ原遺
跡、大桜遺跡出土の精製浅鉢


ごあいさつ

中ツ原遺跡といえば、縄文時代後期を代表する土偶「仮面の女神」（重要文化財、平成 25 年当時）で有名な遺跡と言えるでしょう。縄文時代後期の八ヶ岳山麓は、その前の縄文時代中期に比べて遺跡数が激減しています。

中ツ原遺跡は、縄文時代中期前半から縄文時代後期前半まで継続して営まれた数少ない集落のひとつです。この中ツ原遺跡を手がかりに、縄文時代中期から後期にかけて、八ヶ岳山麓に展開した縄文文化の変化を追いかけていきます。

●平成 24 年度（2012 年度）特別展「聖石遺跡展」

平成 24 年度茅野市尖石縄文考古館特別展
聖石遺跡展



遺跡名の由来
しんがた「聖石」

第15号墓穴住居跡から出土した
土器に穴をあけた土器（複製）

会期：平成 24 年 7 月 14 日（土）～11 月 25 日（日）
（毎週月曜日 [7/23、7/30、8/6、8/13 を除く]、祝日の翌日は休館）

開館時間：9 時～17 時（入館は 16 時 30 分まで）

会期中にギャラリートークも開催します。

7 月 29 日（日） <午前> 10 時～11 時 30 分
<午後> 13 時 30 分～15 時

10 月 28 日（日） <午前> 10 時～11 時 30 分
<午後> 13 時 30 分～15 時

お問い合わせ：茅野市尖石縄文考古館
391-0213 長野県茅野市豊平 4734-132 TEL 0266-76-2270
URL <http://www.city.chino.lg.jp/ctg/07050020/07050020.html>

会期：平成 24 年（2012 年）7 月 14 日（土曜日）
～11 月 25 日（日曜日）

展示資料：聖石遺跡出土資料

（担い手育成基盤整備事業（芹ヶ沢地区）
および国道 299 号線バイパス建設事業に
ともなう発掘調査で出土した資料）

参考文献

財団法人長野県文化振興事業団 長野県埋
蔵文化財センター編 2005『長野県埋蔵文
化財センター発掘調査報告書 69 担い手
育成基盤整備事業（芹ヶ沢地区）国道 299
号線バイパス建設事業埋蔵文化財発掘調査
報告書 聖石遺跡・長峯遺跡・別田沢遺跡』

ごあいさつ

茅野市内には約 350 か所の遺跡がありますが、そのうち縄文時代の遺跡は 237 遺跡にもなります。それぞれの遺跡には特色があり、当時の拠点とも言える集落遺跡もあれば、狩猟のための落とし穴しか見つからない遺跡や、霧ヶ峰の黒曜石を大量に加工している遺跡、移動途中に一休みしたような遺跡など、縄文時代の生活ぶりを伝える情報はたくさんあると言えるのです。

今回の特別展は、平成 9 年～10 年にかけて、圃場整備にともなって調査された集落遺跡である聖石遺跡を取り上げ、「聖石ムラ」の姿に迫ります。

●平成 23 年度（2011 年度）特別展「長峯遺跡出土土器展」

会期：平成 23 年（2011 年）7 月 16 日（土曜日）
～11 月 27 日（日曜日）

展示資料：長峯遺跡出土資料

（担い手育成基盤整備事業（芹ヶ沢地区）および国道 299 号線バイパス建設事業にともなう発掘調査で出土した資料）

参考文献

財団法人長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター編 2005『長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 69 担い手育成基盤整備事業（芹ヶ沢地区）国道 299 号線バイパス建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書 聖石遺跡・長峯遺跡・別田沢遺跡』



平成 23 年度

茅野市尖石縄文考古館特別展

長峯遺跡出土土器展

開催期間 平成 23 年 7 月 16 日（土）～11 月 27 日（日）

（休館日 毎週月曜日・祝日の翌日／7/25、8/1・8・15 は開館）

無料開館日 7/18（月）、9/10（土）・11（日）、10/8（土）・9（日）

開館時間 9:00～17:00（入館は 16:30）

観覧料 大人 500 円（400 円）、高校生 300 円（200 円）、小中学生 200 円（150 円）

※（ ）内は 20 人以上の団体料金

イベント 8/3（水） 10:00～11:30「学芸員と語る特別展ギャラリートーク①」

11/23（水） 10:00～11:30「学芸員と語る特別展ギャラリートーク②」

ごあいさつ

八ヶ岳山麓は縄文時代の遺跡の宝庫であり、5000 年のはるか遠い過去に、日本列島でもっとも人口が多かったのではないかと、その研究例もあるほどです。

今回ご紹介する長峯遺跡は、渋川と角名川が合流する地点にほど近い長い尾根状の台地に位置しています。昭和 34 年に開田工事のため、宮坂英弼氏が調査を行いました。数軒の竪穴住居のほか、石棒を一角に据えた石囲い炉が見つかっています。その後しばらく調査はありませんでしたが、平成 11 年及び 12 年に国道 299 号線のバイパス建設のため長野県埋蔵文化財センターにより調査が行われました。

この調査で 200 軒を超える竪穴住居が見つかりました。市内に多数の縄文時代の遺跡がありますが、そのなかでもトップクラスの規模でしょう。そして、出土した土器もまた、市内のほかの遺跡にまったく見劣りしない造形を見せています。

この特別展では、これらの土器を初めて大々的に公開するものです。縄文時代の土器に施されたさまざまな造形をじっくりとご覧いただきたいと思います。